

<p>事例 その他  <b>「キャンパスセキュリティーセンター」による                  安心と安全から始まる教育活動</b>                  ~ 玉川学園 ~</p>	<p>本事例の中心人物                  学園長</p>
---	--

**事例内容**

**【概要】**

玉川学園ではキャンパスセキュリティーセンターを立ち上げ、学園全体(大・高・中・小・幼)でのキャンパスセキュリティー(防災、防犯、情報管理等)に取り組んでいる。

**【背景】**

昭和 58 年に全国の学校に先駆けて防火防災・防犯・交通安全を主業務とする安全管理課が設置される等、学園の風土として安全に対する強い意識があった。平成 15 年には、安全管理課を発展させキャンパスセキュリティーセンターを発足し、防火防災に限らず広く学内の安全向上を目指す体制が整えられた。

**【取組み内容】**

< 防災 >

学園各地区で年 2~3 回、学園全体で年 1 回の防災訓練を実施している。ハード面では、1 万人が 3 日間生活できる量の物資(コンテナ 15 棟)を備蓄しており、万が一の災害発生に備えている。備蓄のために必要な費用の一部については、父母会からの援助を受けている。

防災についても一つの重要な教育であるとの考えから「防災の手引き」を作成し、新入生全員に配布している。

< 警備 >

専任および委託の警備員が学内を警備しているが、併せてキャンパスセキュリティーセンターのスタッフが、午前・午後の 2 回校舎内を巡回している。

< 危機管理 >

危機管理に関する規程を整備し体制を整

えているが、在学生在が海外で研修を受ける機会を利用して、学生や保護者も参加する危機管理体制のテスト(現地の空港でテロが発生したとの想定)を行う等、その実効性についても検証を行っている。

< 情報管理 >

平成 16 年 2 月に「プライバシーマーク取得プロジェクト」を発足し翌年 9 月に取得。プロジェクトは学内の人員で構成し、外部のコンサルタントは導入しなかった。

< 学生対応 >

事件や事故に遭遇した学生の相談を受け付け、しっかりとしたフォローを行っている。

**【結果】**

キャンパスセキュリティーセンターは、学生の認知度も非常に高く、何か事が起きたときに連絡できる先がはっきりしているということが安心感を与えている。また、保護者からも学園のセキュリティーに対する姿勢が信頼を得ており、財政的な支援等も得やすい状況である。

このような取り組みは、直接的にはキャンパスのセキュリティーを目的としているものであるが、警備員の丁寧な案内による学園のイメージアップや、プライバシーマークの取得による PDCA サイクル(Plan-Do-Check-Act)の定着等、思わぬ副次的な効果が生まれる結果となった。

**成功のポイント**

- 「安全は学校経営の大きな柱である」という、強い認識に基づく取り組み
- ・学園長の強いリーダーシップが背景にあった。
- ・教育スタッフ全員の危機管理意識の向上への取り組み(教育研修など)があった。安

全対策規程を制定し、事件・事故が起こった際の対応等が明確にされている。

専任職員（現在は一部委託）としての警備員の活用

- ・職員としての自覚を持たせることで、「警備」だけを目的とするのではなく学園の「顔」として、案内や挨拶などの積極的なコミュニケーションも行われている。

安全管理システムだけではなく、「予防」の意識から「安全教育」まで落とし込まれた取り組み

- ・「安全教育」まで落とし込まれた規程を策定し、実施している。
- ・地震、火災、台風、事故、犯罪、海外での安全管理等の項目をまとめた「防災の手引き」という冊子を作成・配布し、学園全体に周知している。

ISO14001 の取得で培われたマネジメントシステムによる取り組み

- ・PDCA の取り組みとスパイラルアップ（継続的な改善）の意識、ドキュメントの作成と管理がなされている。

地域の関連機関（警察・消防など）との連携

- ・積極的に地域と連携することで、セキュリティ効果が向上している。

## 今後の課題(展開)

学外での学生の教育活動時（海外研修など）の危機管理体制の整備

現在、構築中であるが、様々な事例や連携を想定して作成するとともに、事前シミュレーション（模擬実験）にて有効性を確認する。マニュアルも今後作成する予定である。

学生防災ボランティア制度の充実

消防庁との連携による学生防災ボランティア制度を充実（参加人数・内容など）させ、制度の活用法も含め構築していく。

## 委員の所感

教職員・学生が力を合わせて学園を開墾した背景から、「学園は自分たちで守る」という風土や意識が醸成されている。キャンパスセキュリティの範囲を広く捉えて、安全対策に全学で取り組んでいる。

開学以来の地域との密着性や様々な連携活動から、キャンパスセキュリティのシステムにおいても、連携・協力態勢がスムーズに行われている。

ISO14001 の取得の活動が、全教職員の意識の中に培われており、全ての活動を「システム」として捉え、無理なく継続的な改善に取り組む姿勢や体制が整えられている。

教育の場の「安全」に対する危機感が高まる中で、学内だけではなく地域においても、キャンパスセキュリティセンターの重要性が高まると考えられる。